【問題】（演習）★★

次の文を読んで問いに答えなさい。

(1)八月十五日ばかりの月に(a)いでゐて、かぐや姫いとA いたく泣きたまふ。人目も、今はつつみたまはず泣きB たまふ。これを見て、親どもも、「何事ぞ」と問ひ騒ぐ。かぐや姫泣く泣く(b)いふ、さきざきも申さむと思ひしかども、かならず心惑ひしたまはむものぞと思ひて、今まで過ごしはべりつるなり。さのみやはとて、うちいではべりぬるぞ。おのが身は、この国の人にもC あらず、月の都の人なり。それを、昔の契りありけるによりてD なむ、この世界にはまうで来たりE ける。今は帰るべきになりにけれF ば、この月の十五日に、かの(2)もとの国より、迎へに人々まうで来むず。さらずまかりぬべければ、思しなげかむがG 悲しきことを、この春より(3)思ひなげきはべるH なりといひていみじく泣くを、翁、「こは、なでふことのたまふぞ。竹I の中より見つけきこえたりしかど、菜種の大きさおはせしを、わが丈立ち並ぶまで養ひ奉りたるわが子を、なにびとか迎へきこえむ。まさに許さむや」とJ いひて、「(4)我こそ死なめ」とて(5)泣きののしること、いと堪へがたげなり。

（『竹取物語』）

問1　傍線部(a)「いでゐて」、(b)「いふ」を、現代仮名遣いで、それぞれ書きなさい。

問2　波線部A～Jの品詞名を答えなさい。

問3　傍線部(1)「八月」は、月の異名で何と呼びますか。ひらがなで書きなさい。

問4　かぐや姫の言葉は、どこからどこまでですか。初めと終わりの五字をそれぞれ書きなさい。

問5　傍線部(2)「もとの国」と同じ意味で用いられている言葉を、次の中から一つ選びなさい。

(ア)　この国　　(イ)　月の都　　(ウ)　この世界　　(エ)　竹の中

問6　傍線部(3)「思ひなげき」、(5)「泣きののしる」の主語を、それぞれ文中の語で答えなさい。

問7　傍線部(4)「我こそ死なめ」の「め」は助動詞「む」が活用したものである。この活用形を答えなさい。